

腫瘍センターNEWS

第2号:2010/03/31

不定期発行

院内がん登録について

2008年全国集計提出を終えての課題



先日、がん診療連携拠点病院の指定要件である院内がん登録 2008 年データを期限内に提出することができました。まずは、お忙しい中提出にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。本年の提出件数は、「2,583 件(1腫瘍1登録)」と恐らく北海道でトップであり、当院におけるがん医療の取り組みが統一基準(厚生労働省が示した標準登録様式)で数値化されたことは、DPCと同様、大変インパクトがあります。今後は、施設別のデータ公開も予定されている様ですので、2008 年の集計も含めてフィードバックしていきたいと考えております。

前段が長くなりましたが、本稿では今回のデータ提出を終えて、今後の課題を私見で恐縮ですが、幾つか挙げさせていただきます。

まず、登録側の課題ですが、登録対象の見つけ出しから登録までの作業量が多く複雑であることです。現在、登録対象の見つけ出し作業は独自システムを作成して運用しておりますが、これらは時期システムの更新で体系的に対応する必要があると思います。また、複雑な標準登録様式を理解できるよう、登録者のスキルの向上も課題として挙げられます。

次に施設としての課題ですが、診療録の記載のさらなる充実が必要です。がん登録データは診療録より abstract しておりますので、特に TNM 分類等の情報を電子カルテ上に登録・確認できる仕組みが必要と考えます。また、予後調査方法に関して、院内のシステムが確立していないので、早急に体制づくりが必要と考えます。そして、何より当院全体でがん登録情報を含めたがん診療に関する情報(手術やレジメン・有害事象のデータ等)を管理するデータベースの構築(がん登録情報のみでは臨床への使用が困難)を検討する必要があるのではと考えております。

以上幾つか課題を挙げさせていただきましたが、日頃このようなことを考えて作業をしている者がいるということが伝われば幸いです。

医事課医療支援室 院内がん登録室 初山 貴

研修会のお知らせ



4月15日(木) : 第一ゼミナール室

「北海道大学病院腫瘍センターについて」
「カテーテルポート管理・ポートマニュアルについて」

緩和ケア室の紹介



「腫瘍センター緩和ケア室」(緩和ケア室)は、平成21年7月30日に現在の位置である中央診療棟1階に移転をしました。救急玄関と病棟エレベーターホールのちょうど中間あたりです。それまでは外来棟の地下にありましたので、一気に主たる働き場である各科の病棟の近くに来ることができました。

また、移転前よりも少し大きな部屋を確保することができましたので、緩和ケア室内で行っていた緩和ケアチームカンファレンスでも、相互の顔を見ながらより充実した話ができるので、カンファレンスの効果も大きくなったようです。

緩和ケア室には、緩和ケアチームのリーダーである田巻医師とがん性疼痛看護認定看護師である竹田看護師が常駐し、緩和ケアチームのほかのメンバーも多く来室しますが、病棟等で緩和ケア診療を行っている時間が多いため、実際に緩和ケア室内にいることは多くありません。

今回は、腫瘍センターの中でも、緩和ケアチームの事務室というよりセミナー室として利用している緩和ケア室を、皆さんによく知っていただくために、室内の様子を写真によりまして紹介いたします。正式な依頼だけではなく、気軽な相談も歓迎です。ご用の際は、どうぞお越しください。



お知らせ



現腫瘍センター長である福田諭教授(耳鼻咽喉科長)が4月から病院長へ就任することに伴い、腫瘍センター長は櫻木範明教授(婦人科長)へ交代します。平成22年度は、2代目センター長の下、新しい体制でやってまいります。よろしくお願いいたします。

先月発行した創刊号に続き、第2号を発行することができました。平成22年度も当センターの最新NEWSを紹介してまいります。

ご意見感想などはこちらまで・・・

医事課医療支援室地域医療連携係

Email:itiki@jimu.hokudai.ac.jp

